

科目名		授業形態	担当教員名	
言語発達障害演習 I		講義・演習	西田 和子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
A、Bの2グループに分かれ、同時並行で少人数性で演習を行う。前半と後半でグループを入れ替える。インテーク、行動観察の見方、検査の見方とまとめ方、及び訓練記録のまとめ方を学ぶ。				
授業の到達目標				
グループ討議やレポート課題を通して、インテークから情報収集すること、及び行動観察と検査による評価の仕方を学ぶ。また、それぞれの内容について、情報のポイントが記載できるようになる。インテークの演習を通し、話の聞き取りやまた聞き取った情報の整理の仕方を知る。行動観察や検査の見る視点を身につけ、得た情報もとに学生間で討議を行い、まとめることができるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	子どもの発達（課題1）			
3	新版K式発達検査：解釈			
4	新版K式発達検査：解釈・検査所見の書き方			
5	インテークの仕方			
6	インテークの実際・情報の整理とまとめ（課題2）			
7	インテーク（FB）検査による評価			
8	検査による評価（課題3 検査所見）			
9	検査所見FB 行動観察			
10	総合所見の書き方（課題4 総合所見）			
11	総合所見FB 子どもの行動観察演習①			
12	子どもの行動観察演習①（課題5）			
13	課題⑤FB 子どもの行動観察演習②			
14	行動観察演習②（課題6）			
15	行動観察②及び全体のフィードバック			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート	90%	レポート課題		
小テスト				
平常点	10%	講義（討議・提出物等）		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
発達がわかれば子どもが見える	田中真介 監修	ぎょうせい		
標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版	玉井ふみ 編	医学書院		
言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版	石田宏代 他著	医歯薬出版		
言語聴覚士のための臨床実習テキスト-小児編	深浦順一 他著	建帛社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
ことばの障害入門 入門コース・ことばの発達と障害2	西村辨作 編	大修館書店		
ことばの障害の評価と指導 入門コース・ことばの発達と障害3	大石敬子 編	大修館書店		
自由記載				
備考				